～健康のまち行動計画策定にむけて～

「ウェルネス・アクションつる」その8

具体的な計画につなげるための「力」

第四回市民懇話会が三月二十二日に開催されました。この懇話会では、前回までに、暮らしの中での健康に関する「思いや願い」から「知恵やアイデア」までの意見を出し合ってきました。

今回は、実践的側面から具体的な計画につなげるための「力」について、話し合いましたので、その一部を紹介します。

民生委員として地域で活躍しているAさんは…

・市民意識の力を利用するのであれば地道な活動が良い。大勢の人の大きな力でなく、小さな力の積み重ねが必要かと思います。

一人暮らしの老人への毎日の声かけが、隣り近所の役割として、無意識で実践できるような環境づくり。誰がするのではなく、気づいた人がするのが良い。

また、「明るいまちづくり」ステッカーを各世帯に配布し、意識の浸透を図るのはどうでしょうか。

・ふれあいのまちづくりとして、自治会単位で高齢者の「ふれあいサロン」をモデル的に実施しました。大きな集会でなく、身近なところで、四、五人の小さな集まりができれば、理想だと思います。

青年会議所に所属するBさんは…

・「健康のまち」ってみんながいきいきと暮らし、それぞれが一役担っていると実感できるまち(木に例えると、大きな幹)。行政は、その木を大きく育てる太陽や雨、つるしまちづくりネットワークを始め、様々な団体が良い木に育てるための肥料。都留市という大地にそんな木が育つといいですね。

・子供達に心から感動できる事業を。例えば、わんぱく相撲を総合学習にしたり、中学生の職業体験を小学生にもできると良い。自分を映すのは、周囲の人間であることに、気づいてもらうことが大切。

・ねたきりの方々について、全市民が対応することが最良だが、まずは小さなNPO(民間非営利組織)から始まると良い。

・少子化による学校の空き教室の有効活用。

・障害者に対する一人ひとりの意識が薄い。インターネットの有効活用、NPOの中ですぐに動ける人が、応援に駆けつけられるような体制づくりが必要。

・高齢者が経験、思いなどを次世代に引き継げる、ふるさと探検隊などを各地区で行う。

・何でも行政まかせではなく、一人ひとりが自立し、お互いに考えや力を出し合っていこうという思いになることが大切である。

女性団体連絡協議会の代表のCさんは…

・女性団体連絡協議会は、女性十一団体のまとまりです。この団体の持つ可能性は、大きいと思います。どんな小さなことでも、取り組んでいきたい気分です。都留市全体に広がる女性の力を活かせたら良い。「小さな声かけでも良い」きめ細かにできるのではないでしょうか。

・「なんでも行政に頼る」から「みんなが考え、力を出し合う」そんなふうにしたい。

経営者団体連絡協議会代表のDさんは…

・子供達に両親が苦労して稼ぐ姿を見せ、働くことの意義や価値を学ぶ必要があると思う。

・高齢者、障害者の職場づくりを経営者が考えていくことも大切であると感じています。

意見交換

●学校の空き教室の活用は実際困難なようであるが、全国には、地域に開放している学校もあるようだ。学校が地域に開かれて、自由に出入りできる環境づくりは必要だと思います。

◆障害者も外に出て、知ってもらうことも大切。いろいろなことを行政に頼るばかりでなく、小さなことでも、自分達でできる活動をすることが必要だと思います。

▼子供も高齢者も障害者も一つの枝。それを一つの木にしようと思っていますが、やりたいけれどできない。また、どうしてよいのかわからない。

「助け合う市民の会員証」などを作る。三万人のまちで諦めたらいけない。この会が、何か動き出す方向に進んでいけば良い。

★健康なまちづくりで、「思いやり」とか、「善意」の具体的な実践をどう進めていくかには、いくつか方法があります。グランドワークもその一つで、エコマネーの活用もあります。自分のできることを行動に移し、それを地域でまわしていけるような具体的なものを考えるのも良いと思います。

●都留市全体を幹にしようとするのは大変なので、各地区に立たせたらどうでしょうか。東桂は高齢者、宝は子供など、地区で幹を決め、都留市全体が森になるのはどうでしょうか。

◆地域で、良い意味での「調子づく人」が必要。その人を発掘し、リーダーとして育てるような研修会が必要だと思います。

▼つるしまちづくりネットワークでは、やりたい人が、たくさんいることを知りました。新しい試みができると良いと思います。

★今後、この会で具体的なプランづくりの場として進められたら良いと思います。各団体や地域の企画を持ち寄り、考えていったらどうかと思います。例えば、「健康のまちづくりサポーター」などを作り、具体的な役割を持った人材を地域に作り出してみるのも良いかと思います。

●懇話会のメンバーの背景にある団体や組織の人達を同じくらいの意識にすることが課題です。また、具体的な事業の実施決定、これらの展開が今後の取り組みになることでしょう。

これからの取り組み

平成十二年度も同じメンバーで検討を重ね、早期に提言書としてまとめていく予定です。